

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2021/8/1 ~ 2021/11/30)

令和4年3月11日
 令和3年度第3回
 医薬品等安全対策部会
 資料 3-1

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	ProMED-mail 20210515.8360598	2018年4月~2019年3月において、英国の献血者集団を対象にE型肝炎ウイルス(HEV)感染のリスク因子を調査した症例対照研究。全体として、HEV RNA陽性の117症例のうち76例、HEV RNA陰性の564例のうち552例が無症状であった。英国のヒトの臨床サンプルから検出されたウイルスは、欧州のブタから検出されたウイルスと密接に関連している。英国では2010年~2016年に急性HEVの増加傾向が認められ、2015年に1212例、2016年に1243例、2018年に1002例、2019年に1202例が報告された。
2	ヒトT細胞リンパ親和性ウイルス感染	Transfusion. 61(2021)484-493	日本の献血者におけるスクリーニング検査でのヒトT細胞白血病ウイルス(HTLV)-1/2抗体陽転者を対象とした遡及調査により、7種類のHTLV-1/2検査法のウインドウ期間を推定した。
3	ヒトT細胞リンパ親和性ウイルス2型感染	J Virol Methods. 287(2021)114005	日本の妊婦検診による一次検査の後、ラインイムノアッセイ法とPCR法によりHTLV-2感染と診断された日本人妊婦についての報告である。
4	インフルエンザ	CDC FluView. 2021/05/22	オハイオ州において、インフルエンザA(H1N2)変異型(A(H1N2)v)ウイルス感染者1例が報告された。患者はブタがいる農場に居住していた。この患者に関連したヒトからヒトへのインフルエンザA(H1N2)vウイルスの感染は確認されていない。本件は、2021年に米国で発生した最初のインフルエンザA(H1N2)vウイルスである。
5	インフルエンザ	CDC ホームページ. https://www.cdc.gov/flu/weekly/weeklyarchives2020-2021/week11.htm	ノースカロライナ州において、新型インフルエンザAウイルス感染者1例が報告された。この患者は、2020年にインフルエンザA(H1N1)変異(A(H1N1)v)ウイルスに感染していた。感染源に関する調査で、この患者がブタがいる場所で働いており、ブタに接触していたことが明らかになった。この変異ウイルス感染は2021年まで検出されなかったが、2020年(2020年~21年シーズン)に米国で採取された検体から特定された初めてのインフルエンザA(H1N1)vウイルスである。
6	インフルエンザ	CDC ホームページ. https://www.cdc.gov/flu/weekly/weeklyarchives2020-2021/week14.htm	ウィスコンシン州において、新型インフルエンザAウイルス感染者1例が報告された。この患者は、インフルエンザA(H1N1)変異(A(H1N1)v)ウイルスに感染していた。感染源に関する調査で、この患者がブタに直接接触していたことが明らかになった。本件は、2021年発生の米国で初めて検出されたA(H1N1)vウイルス感染であり、2020年~2021年シーズン中に発生した3例目の新型インフルエンザAウイルス感染(A(H3N2)vウイルス:1例、A(H1N1)vウイルス:2例)である。
7	インフルエンザ	CDC ホームページ. https://www.cdc.gov/flu/weekly/weeklyarchives2020-2021/week20.htm	FluViewにおける2021年インフルエンザシーズン第20週(2021年5月22日まで)のレポート。オハイオ州において、インフルエンザA(H1N2)変異型(A(H1N2)v)ウイルス感染者1例が報告された。この患者はブタがいる農場に居住している。この患者に関連したヒトからヒトへのインフルエンザA(H1N2)vウイルス感染は確認されていない。本件は、2021年に米国で発生した最初のA(H1N2)vウイルスであることなどについて言及されている。
8	インフルエンザ	CDCホームページ https://www.cdc.gov/flu/weekly/weeklyarchives2020-2021/week21.htm	FluViewにおける2021年インフルエンザシーズン第21週(2021年5月29日まで)のレポート。アイオワ州において、インフルエンザA(H1N1)変異株(A(H1N1)v)ウイルス感染者1例が報告された。この患者はブタのいる農場に勤務している。この患者に関連したヒトからヒトへのインフルエンザA(H1N1)vウイルス感染は確認されていない。本件は、2021年発生の米国で特定された2例目のA(H1N1)vウイルス感染である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
9	インフルエンザ	The Government of Canada Influenza webpage. https://www.canada.ca/content/dam/phac-aspc/documents/services/publications/diseases-conditions/fluwatch/2020-2021/fw-weeks30-34-2021-en.pdf	Flu Watchにおける2021年7月25日～8月28日(第30週～第34週)のレポート。今シーズンのこれまでに散発的に検出された変異型ブタインフルエンザAウイルス感染症例の4例(インフルエンザA(H1N1)変異型ウイルス:1例, インフルエンザA(H1N2)変異型ウイルス:2例, インフルエンザA(H3N2)変異型ウイルス:1例)について言及されている。
10	H1N1インフルエンザ	CDC FluView. 2021/05/29	FluViewにおける2021年インフルエンザシーズン第21週(2021年5月29日まで)のレポート。アイオワ州において、インフルエンザA(H1N1)変異株(A(H1N1)v)ウイルス感染者1例が報告された。この患者はブタのいる農場に勤務している。この患者に関連したヒトからヒトへのインフルエンザA(H1N1)vウイルス感染は確認されていない。本件は、2021年発生の米国で特定された2例目のA(H1N1)vウイルス感染である。
11	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20210419.8312632	米国疾病予防管理センター(CDC)は、ウィスコンシン州の子供の新型インフルエンザA変異型ウイルス感染症例を報告した。CDCのインフルエンザ調査レポート(FluView)によると、患者は入院せずに、病気から完全に回復した。感染源の調査により、患者はブタと直接接触していたことが明らかになった。
12	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20210504.8340504	マニトバ州南部の異なる地域において、変異型インフルエンザウイルスの2症例が発見された。1例はヒトインフルエンザA(H1N2)変異型ウイルスの症例、もう1例はヒトインフルエンザA(H1N1)変異型ウイルスの症例である。これらは、国際保健規則に従ってカナダ公衆衛生庁に報告された。
13	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20210614.8443658	世界保健機関(WHO)は、ドイツにおけるヒトでのインフルエンザA(H1N1)変異型ウイルス感染症例を報告した。感染したのは、2021年4月18日にインフルエンザ様の病気を発症したメクレンブルク=フォアポンメルン州の17歳の少年である。この患者は、発病の数日前まで養農場で働いていた。呼吸器症状発症後、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染が疑われた為、患者は隔離措置が施された。その農場の他の労働者又は患者の家族に症状はみられず、患者は回復した。さらなるウイルス学的調査等が進行中である。
14	インフルエンザ	ProMED-mail 20210609.8428102	FluViewにおける2021年インフルエンザシーズン第21週(2021年5月29日まで)のレポート。アイオワ州において、インフルエンザA(H1N1)変異株(A(H1N1)v)ウイルス感染者1例が報告された。この患者はブタのいる農場に勤務している。この患者に関連したヒトからヒトへのインフルエンザA(H1N1)vウイルス感染は確認されていない。本件は、2021年発生の米国で特定された2例目のA(H1N1)vウイルス感染である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
15	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20210330.8273674	ノースカロライナ州において、新型インフルエンザAウイルス感染者1例が報告された。この患者は、2020年にインフルエンザA(H1N1)変異(A(H1N1)v)ウイルスに感染していた。感染源に関する調査で、この患者がブタがいる場所で働いており、ブタに接触していたことが明らかになった。この変異ウイルス感染は2021年まで検出されなかったが、2020年(2020年～21年シーズン)に米国で採取された検体から特定された初めてのインフルエンザA(H1N1)vウイルスである。
16	インフルエンザ	WHOホームページ. https://cdn.who.int/media/defaults/default-source/influenza/human-animal-interface-risk-assessments/influenza_summary_ira_ha_interface_jan_2021.pdf?sfvrsn=8199e1e_9&download=true	2020年12月10日～2021年1月29日における、動物からヒトへのインフルエンザウイルス感染症例に関する報告。 ・インフルエンザA(H5N6)ウイルス 2020年12月9日、ヒトでのインフルエンザA(H5N6)ウイルス感染の検査確定症例4例が、中国からWHOに報告された。2014年以降、ヒトでのインフルエンザA(H5N6)ウイルス感染の検査確定症例の計29例が中国からWHOに報告されている。 ・鳥インフルエンザA(H9N2)ウイルス 2020年12月9日、ヒトでの鳥インフルエンザA(H9N2)ウイルス感染の検査確定症例6例が、中国からWHOに報告された。12月9日以降、2例の追加症例(生きた家禽との接触あり)が中国からWHOに報告された。鳥インフルエンザA(H9N2)ウイルスは、アジアの家禽における風土病であるが、アフリカの家禽での報告も増加しつつある。 ・インフルエンザA(H1N1)変異(A(H1N1)v)ウイルス 2020年12月17日、ヒトでのユーラシアトリ様ブタインフルエンザA(H1N1)ウイルス感染症例1例が、オランダからWHOに報告された。このウイルスは、全ゲノムシーケンシングで、ユーラシアトリ様ブタインフルエンザA(H1N1)ウイルスと断定された。また、中国からも同日に1例、2021年1月25日に4例が報告された。 ・インフルエンザA(H1N2)変異(A(H1N2)v)ウイルス 2020年12月15日、ヒトでのインフルエンザA(H1N2)vウイルス感染症例1例がブラジルからWHOに報告された。この患者は、ブタの食肉処理も行う農場に住んでいることが明らかになっている。 ・インフルエンザA(H3N2)変異(A(H3N2)v)ウイルス 2021年1月23日、ヒトでのブタインフルエンザA(H3N2)ウイルス感染症例1例が、米国からWHOに報告された。この患者はブタのいる農場に住んでいることが明らかになっている。また、CDCによるウイルスのシーケンシングで、このウイルスが、2019年～2020年に米国中西部に生息するブタにおいて循環したインフルエンザA(H3N2)ウイルスに類似していることも明らかになっている。
17	鳥インフルエンザ	HPS Weekly Report. 55(2021)2403	中国において、鳥インフルエンザA(H10N3)ウイルスによる初のヒト感染症例が認められた。
18	鳥インフルエンザ	HPSホームページ. https://www.hps.scot.nhs.uk/publications/hps-weekly-report/volume-55/issue-24/h10n3-avian-influenza-in-jiangsu-province-china/	中国において、鳥インフルエンザA(H10N3)ウイルスによる初のヒト感染症例が認められた。
19	鳥インフルエンザ	WHOホームページ. https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/human-infection-with-avian-influenza-a(h10n3)-china	中国において、鳥インフルエンザA(H10N3)ウイルスによる初のヒト感染症例が認められた。
20	ハンタウイルス感染	KECI NBC Montana. https://nbcmontana.com/news/local/1st-hantavirus-case-of-2021-in-montana	Department of Public Health and Human Servicesは、モンタナ州Richland郡の成人男性1例がハンタウイルス感染症と診断されたことを確認した。この患者は、州外で働いており、マウスに接触していた。これは、モンタナ州における2021年の最初のハンタウイルス感染症例であり、1993年に同州で初めて確認されて以降、45例目の症例である。直近では、2018年に症例が報告された。
21	ロタウイルス胃腸炎	J Gen Virol. 102(2021)001581	2017年に日本の小児外来診療所におけるロタウイルスサーベイランス中に、2日間の下痢及び嘔吐の病歴があった15歳の女性から、G15遺伝子型を有するA群ロタウイルス(RVA)が検出された。G15遺伝子型は、これまでウシからのみの検出であったが、分離株の遺伝子型解析の結果から、この株がウシ種由来の人獣共通感染症のウイルスであることが示唆された。これは、ヒトで検出されたRVA G15株の最初の報告である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
22	COVID-19	Emerg Infect Dis. 27(2021)104-112	SARS-CoV-2を口鼻接種したブタ及びナイーブブタを飼育し、血液試料、直腸・口腔・鼻腔ぬぐい液試料及び鼻腔洗浄試料を採取し感染状況を調べた。過去の研究とは異なり、本研究ではブタがSARS-CoV-2に対し低レベルの感受性であることが認められた。また、SARS-CoV-2未接種のブタの感染は認められなかった。
23	COVID-19	Transfus Apher Sci. 60(2021)103105	献血後に症状が現れSARS-CoV-2陽性と判定されたドナー由来の血小板製剤又は赤血球製剤を投与された血液悪性腫瘍患者7例について、献血後の感染の有無を報告したものである。7例中6例は、輸血後に鼻咽頭スワブがSARS-CoV-2陰性であり感染を認めなかった。赤血球製剤を投与された外来患者1例は、輸血2日後に鼻咽頭スワブがSARS-CoV-2陽性であった。当該患者に投与された赤血球製剤のドナーは、献血後10日目にCOVID-19様症状(発熱及びインフルエンザ様症状)を呈した。当該ドナーは発症1カ月後に受けた検査はSARS-CoV-2陰性であり、2カ月後に受けた検査で抗SARS-CoV-2核たん白質抗体も陰性であった。なお、陽性となった受血者は外来患者であり、市中で感染したことも考えられる。
24	COVID-19	Transfusion. 61(2021)2384-2391	2020年3月7日から9月25日に採取されたドナー血液のミニプール(MP)におけるSARS-CoV-2 RNA陽性率を調査したところ、約258,000のドナー血液に相当する17,995MPのうち、16名のドナー血液から構成されるMPの3件が陽性であった。その結果、献血血液100,000件中1.16件がSARS-CoV-2 RNA陽性だと推定され、SARS-CoV-2 RNA陽性検体は、抗SARS-CoV-2抗体陰性であり、ウイルス量は<1,000から<4,000copies/mLと推定された。培養細胞における実験の結果、感染性は観察されなかった。
25	コロナウイルス感染	ProMED-mail 20210522.8375930	2021年3月にフロリダ大学の研究者は、2014年から2015年にハイチで発熱した3人の子供の血液中からヒトに感染するブタデルタコロナウイルスを初めて検出した。研究者たちは血清サンプルをサル細胞に移し、既知のブタデルタコロナウイルスと遺伝的に一致するウイルスを増殖させた。
26	レトロウイルス感染	One Health. 13(2021)100252	ブラジル南部リオ・グランデ・ド・スル州の乳房縮小手術を受けた健康な女性及び浸潤性乳癌と診断され乳房切除術又は乳房部分切除術を受けた女性由来の外科的に切除された乳腺組織について、ウシ白血病ウイルス(BLV)の4つの遺伝子の存在について分析した結果、ヒト試料の86.4%がPCRで陽性を示した。リオ・グランデ・ド・スル州のウシ由来BLV DNAとヒト由来BLV DNAのヌクレオチド同一性は97.8-99.7%であった。これにより、ヒトにおけるBLV DNAの存在と、ウシBLVとの遺伝的近縁性が明確に示され、人畜共通病原体である可能性が強く示唆された。
27	全身性ウイルス感染	Emerg Microbes Infect. 10(2021)1200-1208	中国内モンゴル自治区において、ダニ咬傷7日後に頭痛を含む多様な症状を伴う熱性疾患を発現した男性から、黒竜江省のダニ類から検出されたベイジナイロウイルス(BJNV)と約97-99%の同一性を有する断片が認められた。さらに同病院でダニ咬傷のため入院した患者658人のうち、129人がリアルタイムRT-PCRでBJNV感染が認められた。調査の結果、BJNV RNAは複数のダニ種から検出され、内モンゴルのウシとヒツジはBJNV RNA陽性率が高かった。これにより、BJNVが中国北東部の熱性疾患と関連する可能性が示され、さらに、ダニが潜在的ベクターである可能性及びヒツジとウシが保有宿主となる可能性が示された。
28	熱性感染症	Nat Commun. 12(2021)5539	北海道において、ダニ媒介性急性熱性疾患と関連する新しいナイロウイルスであるエゾウイルスを発見した。患者2名の検体からウイルスを分離培養し、樹立した検査法により、これまでにダニ媒介性感染症と疑われた248検体を後方視的に調査した結果、7名の感染者が北海道内で発生していた。このウイルスがマダニや野生動物にも感染しており、北海道内に定着しているとの報告である。
29	ウイルス感染	ProMED-mail 20210911.8661849	ロシアの専門家は、発熱症状を引き起こす新しいウイルスを発見し、Manychと名付けた。このウイルスは、クリミア・コンゴ出血熱が確認されたロストフ州の医療機関においてヒトの血清サンプルから発見された。
30	ウイルス感染	ProMED-mail 20210917.8675483	Alaska Division of Public Healthの報告によると、2例の患者(それぞれ2021年7月、8月受診)が、天然痘、サル痘及び牛痘と同属に由来する最近発見された種であるAlaskapox(二本鎖DNAウイルス)の3例目、4例目と診断された。初めの2例は、2015年と2020年に確認されたFairbanks地域住民であり、腕に同様の病変を認めた。全4例中3例の患者がネコを飼っており、ネコがウイルスの中間宿主の役割を果たし、本ウイルスをヒトに感染させる可能性があることに言及している。

ID	感染症(PT)	出典	概要
31	重症熱性血小板減少症候群	ProMED-mail 20210705.8495328	原因不明の発熱患者を対象とした遡及調査により、関東地方で初めて重症熱性血小板減少症候群ウイルスによる感染が確認された。
32	クロイツフェルト・ヤコブ病	GOV.UKホームページ. https://www.gov.uk/government/publications/critical-risk-assessment-report-use-of-uk-plasma-for-the-manufacture-of-immunoglobulins-and-vcjd-risk	英国において、血漿を使用した血漿由来製品の製造禁止措置の解除による変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)患者増加のリスクが検討された。数学的に予想される将来のvCJD臨床例の数は、評価されたほとんどの製品で1~2例以下と推定され、その他の製品では、新鮮凍結血漿輸血で今後50年間に予測される15例の臨床例と同程度となっている。このレベルのリスクは、新鮮凍結血漿輸血については許容可能と考えられており、以前実施されていたリスク低減措置は撤回されている。結論として、人免疫グロブリン製品の製造に英国の血漿を使用しても将来的なvCJDの追加リスクはない、又は最小限に抑えられると考えられる。
33	クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathog. 17(2021)e1009276	血液製剤の輸血によるプリオン感染のリスクと白血球除去の感染防止効果を明らかにするため、牛海綿状脳症(BSE)感染ヒツジをモデルとした実験的分析を行った。その結果、輸血はプリオン病の極めて感染しやすい経路となり得ることが確認され、感染者から採取した血液製剤は、白血球除去後でも感染の可能性があることが示された。
34	バチルス感染	Int J Syst Evol Microbiol. 71(2021)doi: 10.1099/ijsem.0.004993	日本人3人の入院患者の血液サンプルより分離されたグラム陽性菌の3株についての研究報告。その3株がMALDI-TOF-MS及び16SrRNA相同性により <i>Bacillus cereus group</i> に属する細菌と同定され、ANI及びdDDHIにより新種に分類されたと報告されている。
35	ヘリコバクター感染	Proc Natl Acad Sci U S A. 118(2021)e2026337118	<i>Helicobacter pylori</i> 陰性の胃疾患患者3人(MALTリンパ腫、胃潰瘍、結節性胃炎)の胃から採取した試料を用いて、 <i>Helicobacter suis</i> (<i>H. suis</i>)を培養することに成功した。分離株のマウスへの接種で全身性炎症反応の誘発と胃粘膜化生の進行が認められた。 <i>H. suis</i> はブタからは分離されているが、ヒトからは分離されておらず、これまでヒトの胃疾患との関連についてのエビデンスは不完全であったが、本研究では <i>H. suis</i> がヒトの胃病病原体であることが証明された。
36	クレブシエラ感染	BMC Vet Res. 17(2021)75	呼吸困難と発熱を呈した17歳のウマの胸水から初めて <i>Klebsiella variicola</i> (<i>K. variicola</i>)が検出されたことに関する研究報告。 <i>K. variicola</i> は、当初は土壌や植物における内生菌として同定されたが、最近の研究ではこの微生物がヒトにおける新興病原体として同定されている。 <i>K. variicola</i> は乳牛の乳房炎を引き起こすことが示されているが、動物からの検出は稀であることにも言及されている。
37	コリネバクテリウム感染	Front Vet Sci. 8(2021)650238	毒素産生性 <i>Corynebacterium ulcerans</i> (<i>C. ulcerans</i>)と関連した呼吸器ジフテリア様感染が認められた6歳の去勢済のウマにおいて、分離株のゲノム配列の特性評価を行った。ウマが、ヒトの呼吸器ジフテリアと類似した <i>C. ulcerans</i> 関連感染の保有と発現が可能なことは報告されておらず、ウマが人畜共通の病原体の保有宿主である可能性が示された。
38	プロテウス検査陽性	Microb Pathog. 158(2021)105098	ブラジルの肉屋で収集した鶏肉、牛肉及び豚肉試料を <i>Proteus mirabilis</i> (<i>P. mirabilis</i>)保有率と分離株のプロファイルを分析し、さらに、市中感染の尿路感染症(UTI-CA)患者由来の <i>P. mirabilis</i> 分離株と比較した。食肉分離株とUTI-CA分離株の高い遺伝的類似性が明らかになり、人獣共通感染症リスクが示唆されている。
39	クリプトスポリジウム感染	ProMED-mail 20210527.8383097	フィンランドの保健当局は、クリプトスポリジウム感染症の増加に注目している。2020年のクリプトスポリジウム感染症の症例数は571例で、2010年の約30倍に至った。ウシからヒトへの感染が指摘されており、感染したウシの排泄物により汚染された水を介した感染経路が考えられている。
40	ブラストシステイス感染	Parasitol Int. 81(2021)102235	ブタにおけるブラストシステイス感染症のスロバキアでの最初の研究報告。対象施設での有病率は12%であった。検出されたサブタイプST5は人畜共通感染症の可能性があり、養豚場におけるヒトとブタの密な接触はリスクとなりうることに言及されている。